

第 122 回 計測技術委員会議事録

日 時 平成 21 年 4 月 24 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30

場 所 電気倶楽部 B 会議室

出席者 委員長 田辺 (電中研)

委 員 木本 (佐賀大)、小平 (日電検)、佐山 (防衛大)、仲嶋 (三菱電機)

幹 事 作本 (日電検)、大谷 (アンリツ)

幹事補佐 白井 (日電検)

資 料

122-1 平成 21 年度 計測技術委員会活動計画

122-2 平成 21 年度 計測研究会開催予定

122-2-1 計測研究会プログラム (5 月開催分)

122-3 平成 20 年度 計測技術委員会活動状況

122-4 平成 20 年度 計測研究会開催状況

122-5 計測技術委員会活動報告

122-6-1 平成 20 年度研究会活動補助金会計報告

122-6-2 2008 年 Chapter 会計報告

122-7 研究会論文投稿システム構築本格運用に伴う今後のスケジュールについて

議 事

1. 議事録の確認

- ・異議なく承認された。

2. 委員交代

白井幹事補佐より、大木委員から小平委員への交代について説明があり、異議なく承認された。

3. 運営委員会報告

田辺委員長より、3 月 5 日に開催された運営委員会の報告があった。

イ. 終了調査専門委員会の報告書について

- ・発足時の設置趣意書に、調査結果の報告を技術報告書でまとめると記載している委員会のうち、すでに終了しているが技術報告書を発行していない委員会がある。今後、何らかの報告を求めることを含め、次回運営委員会で検討される。

ロ. 研究会資料の著作権の扱い

- ・著者が引用する場合は、電気学会への使用許諾の必要はない。

4. 平成 21 年度活動計画並びに計測研究会開催予定

作本幹事より資料 122-1 および 122-2 に基づき、平成 21 年度活動計画並びに計測研究会開催予定について説明があった。

- ・東京支部連合研究会は 9 月 8 日、9 日に東京電機大学で、A 部門大会は 9 月 10 日、11 日に静岡大学で開催される。また、平成 22 年全国大会は 3 月 17 日～19 日に明治大学で開催される。
- ・新設の調査専門委員会について、田辺委員長から検討中との報告があった。
- ・見学会は、スプリング 8 を候補とし、大谷幹事が日程等を調整する。
- ・5 月のテーマ「計測一般」の研究会は広島市まちづくり市民交流プラザで開催する。また、テーマ「電磁波計測」の研究会は 6 月 17 日に開催する。

- ・10月のテーマ「温度計測及び一般」の担当委員に小平委員を追加する。
- ・来年2月のテーマ「光応用計測及び一般」は北海道大学での開催を予定する。

5. 平成20年度活動状況

作本幹事より資料122-3および122-4に基づき、平成20年度活動状況について報告があった。

- ・平成20年の計測研究会発表件数は、最終的に74件となった。
- ・見学会は日電検で開催した。

6. 計測技術委員会活動報告について

白井幹事補佐より資料122-5に基づき、運営委員会で報告する活動報告について報告があった。

7. 会計報告

作本幹事より資料122-6に基づき、活動補助金等の会計報告があった。

- ・研究会予稿集売り上げに対する活動補助金は、2万3千円となった。用途は貸会議室料や研究会懇親会補助である。
- ・Chapter IM-09の補助に関して、Japan Councilから3万円程度の補助があり、協賛研究会の懇親会補助に充てている。

8. 研究会論文投稿システム

白井幹事補佐より資料122-7に基づき、研究会論文投稿システムについて報告があった。

- ・7月1日以降に論文募集する研究会は、新しいシステムの利用が原則となる。
- ・6月1日にシステムの説明会が開催されるので、運用方法などについて次回委員会で報告する。

9. その他

白井幹事補佐より、前回委員会で岩佐委員より報告があった計測自動制御学会誌の解説記事に関連して、産総研の新燃料自動車技術センターから話題提供をいただける可能性があり、検討してはどうかとの報告があった。

10. 技術談話

大谷幹事より、光サンプリングオシロ技術とその応用に関する紹介があった。

- ・光サンプリングオシロはテラビット級の光波形測定が可能である。
- ・測定時間分解能を決定する要因として、短パルス光のパルス幅、ジッタ、振幅ゆらぎが上げられる。
- ・同期方法として、time stampによる方法、PLLによる方法がある。
- ・包絡線検波トリガリング(EDT)法は、トリガリングのための信号を必要としない、ワンダーなどの影響を受けないなどの特長がある。その一方で、従来のEDT法では疑似周波数の同期が必要で、周波数を精密に測定する必要があった。
- ・ビットレート直接測定機能を付加したEDT法を開発し、光サンプリングオシロの測定再現性を評価した。39.7~40 GHzのパルス繰り返し周波数の測定において、周波数測定値の標準偏差は±50Hz程度でよい再現性が得られることがわかった。

次回予定

日 時 平成21年7月24日(金)

場 所 未定